

家庭と學校 (一)

精華學校長 寺田勇吉

家庭教育は人間生活の根柢なり一村一郷延いては國家に於ける人間生活も皆此の根柢より滋養液を吸收する乾枝葉に外ならずといひ又家庭教育は學校教育によりて裨補せらるゝも之により又は其の他によりて代理せらるべきものにあらずといひ家庭教育の主任者たる母は親愛と教導とを結合して兒童を教育し何人と雖も母に代理し得るものなしといふが如きは皆泰西大教育家の唱破する所にして、家庭教育の兒童に大切なる所以を切言するものといふべく隨ひて兒童が學校に就學するに於いては家庭と學校とが共同一致するにあらざれば學校教育の効果を奏すること能はざるは實に明白なる事といふべし是を以て我精華學校が兒童をして必ず家庭より通學せしむるを以て本體とし獨り本校が兒童の爲に寄宿舎を設ざるのみならず尙ほ他の寄宿舎より通學するをも好まざる所以なり然り

而して一組の兒童數を四十人以下とする所以も亦各兒童の個性に基き其の長を助け短を補ふ爲めのみならず各異の家庭に於ける事情にも成るべく適應せる教育を施さんと欲するにあり然りと雖も固より非教育的なる家庭事情には適應するを欲せざるのみならず若し斯かる事情あるに於いては兒童教育の爲め家庭自ら此の事情を排除せられんことを要求して止まざるなり。

然るに、世には兒童の教育を専ら學校に依頼し、依て以て兒童の圓滿なる品性の發達を期し、或は惡習の矯正を望むものなきにしもあらざれども、斯の如きは木に椽て魚を求め百年河清を俟つの類なりと謂ふべし。

兒童の品性陶冶に關する實行の方面は主として家庭の力に依らざるべからずされば世の父母たるものは先づ其家庭を改善して秩序あり規律あるものたらしめ苟くも非教育的なる事物をして兒童の耳目に觸れしめず而して家庭の改善振肅は所謂賢母良妻を得て之に兒童教育の全權を委ぬるにあり。是を以て本校規則中には家庭心得なるものを掲げ

しが尙家庭に對して要求すべき事項の數者を述べんとす。

一、家庭は兒童教育の爲め直接間接を問はず其の教育に有害なる事情は之を排除せられんことを望む例へば不法律なる家庭状態は兒童教育の爲め之を改むることの如きは是れなり。

二、兒童體育の爲め家庭に於ける飲食物、飲食時間に注意すべきのみならず通學の際には雨雪其他止むを得ざる故障のある外は必ず徒歩せしめ且つ通學に着用する衣服の如きも此の心得を以て品質及び裁縫に注意し携帶品は男兒に在りては背囊に入るゝを最も可なりとす。

三、學校用品の整理衣服及び靴の着脱及び其の始末の如きは必ず兒童をして自ら處辨せしむるを要す。

四、父母兄弟は兒童を扱ふに際し決して虚言を弄して一時を糊塗する事なく又兒童の我意に出でたる言行はあくまで之を排斥し以て兒童の虚言及び我儘の萌芽を豫防するを要す。

五、兒童の見聞する所に於いて父母兄弟互に其の

威信を害するの嫌ある言行をさぐるを要す父母兄弟各々特有すべき威信なき時は家庭教育は擧らざるものなり。

六、無害有益なる兒童の讀物は之を讀ましむる固より妨なしと雖も近來此の類の書類續々出版せられ爲めに購ふに暇あらざるの觀あり故に兒童をして之に耽らしめざるの注意必要なり殊に此等娛樂用の書を讀む際には兒童は往々姿勢を亂し又視力を害するの虞ありこれ家庭に於て注意警戒するを要す。

七、家庭教師を聘用するに當りては其の人物を選擇すること最も必要なり教育的素養なくして高等なる學科の知識のみ有するものは兒童の心性發達を害することあるも益なきこと殆ど常なり且つ夫れ教育的素養あるものと雖も往々兒童の不爲と知りつゝ父母の満足を得せんとして復習以上の教授を爲し新事實を教ふる等學校教育の妨害をなすこと屢々なり況んや復習と雖も小學校兒童には殆ど其の必要なし若し其の要あれば本校に於て之をなすべきをや。

八、家庭教育の選擇のみならず婢僕の選擇も亦兒童教育上極めて必要なり家庭の事情によりては兒童は父母の感化よりも婢僕の影響を受くること大なるものありこれ大に注意せざるべからず。

九、多數の兒童ある家庭に於ては往々父母の之に愛を頒つこと不公平なるありて爲に兒童相互間の不和を起し甚しきは一家大破綻の原因となることとありこれ亦大に注意すべき事なり。

十、父母殊に母は成るべく屢々學校を參觀して教員と兒童の訓育に就き懇談せんことを要す。

遊戲的積方に就て

和田 實

積方と云ふのは、木片や石片を積み重ねて種々な形態を構造するのが主なる遊であるが、反對に積んだものを一つ一つ丁寧に下すこともある。最も面白き遊であるが小さな子供には興味がない。最も普通に行はれて居るのは單に積み重ねて造るこ

とである。積方の中最も普通なるは木片の積方即ち積木である。而して此積木には普通玩具店にあるものと從來幼稚園で用ゐて居るフレール式のものと二種がある。坊間に賣られて居るものは木片が細く且特種の圓柱や特種の飾形などがつて初歩の子供には餘り適當したものではない。が少し大きい子供には或は家或は軍艦などを積むことが出来るので夫れく多少の興味があるものである。併し是等の積木は何れも木片の形に特種のない。是に就いて一番よく出来て居るのは矢張りフレール式の積木である。併し氏の積木が形態の種類を六種に限り且全體を必ず一個體にまとめ様としたのは少し牽強の嫌がある。且積木の種類を分けて第一積木より第四積木に至る四種とし何れも形態と其數を限つたのは窮屈な感を免れない。東京女子高等師範學校附屬幼稚園に於ては多少之を改良して四種を減じて三種とし其形態の種類と其數とを幼兒の年齢に適當なる様組み合せて左の三組として居る。